

議事録要旨

会議名	第2回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
開催日時	平成28年7月29日(金) 19:30~21:30
開催場所	aキューブ
出席者 (敬称略)	<p>【部会員(11名)】 福井工業大学/川島洋一(教授)、市民/笹原修之、西田幸男、高木めぐみ、森嗣一郎(21時から参加)、あわら市/長谷川義則、中辻雅浩、山本紹央、細川正樹、坂井真生、竹内優美</p> <p>【デザイナー】 小津誠一(E.N.N.)、伊藤孝紀(TYPE A/B)、山中コ〜ジ・山中悠嗣(GENETO)</p> <p>【外部有識者】:ランドスケープアーキテクト/藤沢</p> <p>【オブザーバー(4名)】 日経BP社/高津、大広/新島(記)、大広北陸/渡辺、言葉や/杉田</p> <p>【事務局(2名)】 あわら市総務部政策課/小嶋(課長)、赤神貴幸(主査)</p>
欠席者 (敬称略)	<p>【部会員(1名)】 市民/八木康史</p>
協議事項	<ol style="list-style-type: none"> まちづくりデザインコンペに参加するデザイナー3組のご紹介 課題発表と意見交換 参加デザイナーとデザイン部会メンバーとの意見交換 その他の検討事項 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回部会とワークショップ開催について(8/29または30) ・あわら市 まちの未来コンテストについて
会議内容 の要旨	<p>(進行)日経BP社/高津氏 デザイナー三組(小津氏 伊藤氏 山中氏の順に)が自己紹介を兼ね、今までの取り組んだ事業などを披露</p> <p><u>小津誠一氏</u> 高校卒業後は東京、京都へ。21世紀美術館をきっかけに金沢に戻り、東日本大震災の翌年、東京から移住。現在は金沢を中心に仕事をしている。 空間作りがもともと本職の建築家。 空間を発見する仕事として、地方版のR不動産(金沢)を展開している。 物件・不動産を見つけるだけでなく、実践として改修をして飲食店経営や運営も行っている。クールな空間を作ることが建築の仕事だが、ホットな場にしたい、という職業意識を持って活動。 そのR不動産の特長は家賃や広さを伝えることだけでなく、空間を取材してキャッチコピーを付け、利用方法などをユーザーの目線で紹介するなど不動産だけでなく、まちのソフ</p>

議事録要旨

トを紹介する仕事をしている。
また別に、移住者のための地図を作るなど、建築事務所とは思えない活動をしている。
建築としては、古い建物のリノベーションを主としている。例は、次のとおりである。
・金沢の廃墟ビルをリノベーションして飲食店へ（金沢へ戻るキッカケ）
・まちの八百屋をデザイン
・古い町屋を商業施設に
・仏壇屋さんだった施設をホテルに
まちの中のひとつひとつ点を打つような仕事が建築だが、面を起こすような仕事を意識している。コンピュータはソフトとOSがないと、ただの箱。ただの箱にならないよう、中身があって、運転していく事業計画があって、建築が機能していく。まちづくりも同様と思い活動している。

伊藤孝紀氏

名古屋工業大学で研究しながら、建築事務所 TYPE A/B を運営
約 20 名で調査・社会実験などを行い、アクセサリーからまちづくりまで地域に密着し設計・デザインを行っている。

自転車周遊できるコミュニティサイクル（IC カードで個人認証システム搭載）
女性が使いやすい、載りやすいデザインを施したコミュニティサイクルの開発など
グリーンエコ

路面駐車場でアスファルトを緑化へ。季節それぞれにまちの風景が変わる、環境学習の場所として、ソーラーパネル発電で避難場所として、まちの様相を変える取り組み

名古屋駅前（名古屋駅地区街づくり協議会）

実はまちづくりが盛んに行われている。「welcomeieki」などデザインに「me」、「名駅」を組み込みデザイン展開

その他 / 工事かりがこいに収益事業へ、お金が回る循環システムなどの社会実験

JP タワー名古屋 / デザインを監修。名古屋文化を入れてみよう、単純にアートが置いてあるだけでなく使えるようなアートを。見るだけでなく触れる・集えるアートへ。金の鯨（雌雄）を 8.88 メートルにして設置。

伊勢市 / 伊勢市外宮、観光拠点を作ろうと外宮の良さ、文化性、交通機関アクセスなどデータを読み解き、独自のコンセプトや敷地が持つ魅力を引き出そう、提案と意見を聞きながらひとつずつ詰めていった事例もある。

まちづくりとデザインは密接な関係があり、ビルドアップ型で作ることは、まちのみなさんの誇りにもなることである。

山中コ〜ジ氏・山中悠嗣氏

議事録要旨

京都と東京に拠点を構え、地域の人々に愛される建築をどうつくり出せるか、と考え活動している。

京都の事例

施主さんから、地域に公民館的な建物を作りたい、ギャラリーもないので、是非開放した空間を作りたいと依頼があり、建築・設計を行った。結果、みんなが立ち寄り、ギャラリー、パーティ、ダンスなど年間通じて使用される建物になり、この事例をもとに、地域の方々に愛される建築を考えるようになった。

群馬県での事例

イタリアン料理屋を設計。まちのシンボルになる様な建物、とんがっている建築をと思い取り組む。結果、本当に尖がった建物に。地域のイベントが出来るスペースとしても活用いただいている。予算がなく施主が自作する様は、まちに対してのプレゼンテーションになった。

その他取り組み

ART MOBILE (アートモバイル) という移動式美術館を展開

京都 / 持続可能な集落づくり、循環型社会を森の中で作っている

隅田市役所 / マルシェのブース展開デザイン

富岡市 / 駅舎デザインコンペ出展

山口駅 / 新幹線開通に伴うコンペ出展経験あり

京都 / アートイベントの計画・実施運営など取り組み多数

(進行) 日経 BP 社/高津氏

部会員に課題を発表いただき、以下まとめ。

課題

1 第 1 回会議の協議内容を踏まえ、未来づくりアンケートを再度お答えください。

Q 3 . 将来、J R 芦原温泉駅周辺がどのようになると思いますか？

Q 4 . 年内に鉄道・運輸機構に新しい新幹線駅のデザインコンセプト (読んだだけで、あなたの考えるデザインが想像できる言葉) を提案する予定です。

北陸新幹線芦原温泉駅はどんなデザインコンセプトがいいと思いますか？

また、具体的に説明してください。将来、J R 芦原温泉駅周辺がどのようになると思いますか？

2 自分が実際に体験した (したい) 憧れの事例探し (「あの街の、こんなところが好き (よかった) 」 など)

3 芦原温泉駅周辺の将来デザインを描くデザイナー 3 組への要望事項

部会長

議事録要旨

- ◆ 福井県北部の玄関口。特急が停まるにも関わらず、降り立った時の外部から来た人のがっかり感が否めない。
- ◆ 外部の人は駅周辺のエリアだけではなく、（温泉の辺り等）広いエリアに期待して来ている
- ◆ 温泉事業はV字回復していると聞いている。それにも関わらず、駅周境界隈が非常に残念
- ◆ （新幹線が来ることは）50年に一度のチャンスなのに、もしそれでも変われなかったらと思うと非常にもったいない。
- ◆ （駅を降り立った時の）ワクワク感をどう創出していくかが課題
- ◆ 好きな場所は太宰府のスターバックス。みんなわざわざ行く。そういうところを作っていかなければならないのではないか。

部会員

- ◆ 駅周辺に求めることは、子どもからお年寄りまで無理なく過ごせるユニバーサルな空間。例えば、自分は88歳になる祖母とよく出かけるが、その際座ったり、休むところがあるといいといつも感じる。
- ◆ 西口は温泉宿場町。ほんのり和の雰囲気を感じさせる。例えるなら「旅籠屋」
- ◆ それにも関わらず、温泉を期待して来たのに現状はがっかり感がすごい。
- ◆ 出雲大社のようにいきなり大きな鳥居が見えるなど、インパクトも必要ではないか。
- ◆ 東口は、鉄、工業、テクノロジーというイメージ
- ◆ 好きな場所は出雲大社駅。初めて来たにも関わらず、どこか懐かしい感じ
- ◆ 駅周辺は、集いや癒し、快適、あとワンちゃんとかがいる感じ
- ◆ （駅舎に求めることは）お年寄りの目線、圧迫感がない、急で長すぎる階段はダメ。デザイン性と機能が両立していないといけない。

部会員

- ◆ 以前今と同様まちづくりの業務に携わっていたが、今回は一市民としての意見を行っていきいたい。
- ◆ 現在、私生活では二人の子どもの育児に追われ、生活は子ども中心な暮らし。駅前エリアに求めることは、目的もなく子どもを連れて散歩に行けて、誰かと集える場所であること。そして、「小さなあわら市（あわら市すべてを集約している）」を感じられる場所であること。
- ◆ 個人的には、中高生時に親しんだ竹田川にも思い入れがあり、何かできないかと感じる。
- ◆ 駅舎のコンセプトは「豊かな自然の中に、歴史を感じさせる駅」
- ◆ 好きな場所は、スターバックス富山環水公園店。そして、家族で旅行した石川県

議事録要旨

辰口温泉混浴露天風呂

- ◆ 駅周辺に求めるイメージは、文化や歴史的背景が感じられ、他のまちにはないような空間、そして癒しがあり現実逃避ができるところ

部会員

- ◆ 駅周辺エリアに求めることは、市民にとっては憩いの場。外から来る方々も含め、内外での交流の場
- ◆ 速達タイプの新幹線が通り過ぎる際も、パッとみて印象に残るようにしたい。
- ◆ あと、歩行者にとっても優しい空間であること。
- ◆ 駅舎は、西はまち並み、東は山など自然、いわば展望台のイメージがよい。
- ◆ 行政が主導ではなく、住む市民の意識が高くなるようにしていきたい。
- ◆ あわら市は、北潟湖や竹田川などの水資源が豊かなところである。
- ◆ 東尋坊などの福井県下にある観光スポットと広域連携を図り、観光・物産を考えていくべき

部会員

- ◆ 駅周辺やエキナカに、役場があればいいと思う。
- ◆ (駅から近いところの)竹田川周辺にホテルがあればいいと感じる。
- ◆ 他にはない、温泉街。心も温まるようなまち
- ◆ 好きな場所は、城崎温泉。三重県の、湯の山温泉
- ◆ 将来像としては、市民が暮らしやすいことをまず第一に考えるべきである。
- ◆ 芦原温泉に降り立っても、観光をしようとしても、交通手段に悩む。バスではなく、代替交通が必要である。
- ◆ 歩き回りたくなるようなまちになればいいと思う

部会員

- ◆ 駅周辺は学生が集まるような感じになればと感じる。
- ◆ 今は学校にも親が送り迎えをするため、学校と家の往復だけになってしまっている。
- ◆ 昔は駅前に本屋等もあり、学生が集まれるような場所だった。
- ◆ 学生が遊べて、親が駅に迎えにくるまで時間が潰せるようなエリアになればと感じる。
- ◆ 将来像としては、普通の生活に楽しみがあることが大切。そして、観光地である、ということに住人も十分に認識をしていけるようにしていきたい。
- ◆ ただし、非日常のような空間にはしたくない。その点で、普通と観光地というバランスが重要である。
- ◆ 好きな場所は、お伊勢さんのおかげ横丁

議事録要旨

- ◆ まち全体がそうでなくていいが、食べ歩き、まち歩き、学生も楽しめる感じの場所
はいいと感じる。
- ◆ (温泉街としての)旧芦原町と(炭鉱の)金津町の、異なる背景点を、どうパ
ランスをとって表現するかは課題と感じる。

部会員

- ◆ 現在は福井市で働いているが、あわら市に帰ってくるとホッとする。
- ◆ 個人的には金沢は都会すぎる。福井は全体的に田舎だが、逆にその田舎すぎ
る点は良いと思う。例えば、(観光をするなら)金沢はまち歩き、福井県は全
部のエリアを満遍なく回れるといった感じ。
- ◆ 友人が福井に遊びに来た際、2月に普通に雪が残っているといったことも期待どお
りだったようである。
- ◆ 芦原温泉に降り立っても、観光したくても車がなければ回れない。交通整備な
ど、まち周遊の仕方が分かりづらい点は大きな課題と感じる。
- ◆ 坂井市丸岡町の知人からも聞いたが、あわら市と相互連携して情報を発信すれ
ば相乗効果が出るのではないか。
- ◆ (広域連携では)三国に行けば、おいしい魚を食べることができる。
- ◆ 個人的には、aキューブで、爆音で音楽が流れている様子は好きではない。おじ
いさんやおばあさんが集っている感じが合っているし良い。
- ◆ 好きな場所は、篠山。まちにいる学生があいさつをしてくれる。
- ◆ 鯖江市河田地区でも同じような経験を。あわら市も、そうなっていくべきである。

部会員

- ◆ 駅周辺に求めるイメージは、きれいさっぱりとして居心地が良いこと。癒しの空間
- ◆ 駅近隣の道路に面して寿司屋があるところから、ふと商店街が見える感じが良い
と感じる。
- ◆ 先ほども話に出たが、富山県のスターバックス環水公園店は好きな場所。竹田
川沿いでもそうなれば良いと思う。
- ◆ 好きな場所は、石川県小松市にある明文堂書店、1階にタリーズもある。
- ◆ 個人的には、駅前に「大戸屋」ができてほしい。
- ◆ 将来像のイメージ作成にあたっては、現実的で実現が可能なことを模索してい
たい。
- ◆ シンプルで機能的ではあるが、(そこに暮らす)市民が安心して暮らせる感じ。
- ◆ そして矛盾するかもしれないが、ワクワクするような空間になっていければよい。

部会員

議事録要旨

- ◆ 駅周辺に関して、例えば駅を降り立ったレトロ空間の利活用に課題を感じている。例えば、（今後なくなる）1haくらいの敷地である自動車学校があるが、その利活用
- ◆ 試験として、駅裏（東口）は企業誘致をしていく、駅前（西口）はにぎわいを創出していく。
- ◆ 竹田川沿いにホテルもいいし、名前が「芦原温泉駅」なので、（名称からも宿場町ということを謳っていることから）駅前にビジネスホテルがあるべきとも感じる。

外部有識者

- ◆ 専門は、ランドスケープデザイン領域。以前、芦原温泉駅の西口の整備事業に携わり、現在まで福井駅整備事業等に携わった経験からも、今日は何か参考になればと思い参加した。
- ◆ 素朴な風景、そして住民の暮らしぶりがある中で、観光地として成立することが大切と考える。
- ◆ 市民が主体となっているまちであり、みんなが明るく生活をしていて、それが（どこでも）当たり前のように暮らしている。
- ◆ そこに、観光にきた方が見て感じて「“あわら”らしい」と思ってもらうことが大切なのではないか。
- ◆ 何が足りなくなったのか？を考えるべき。観光に来た方々にとっては、生活必需品が買づらいなどは嫌な印象になりかねない。
- ◆ 川のある風景は大切だと感じる。そこに住む市民にとっては居心地が良く、訪れた方々にとっては自然の大きな包容力に包まれているような感覚を与える。
- ◆ 駅名が「芦原温泉駅」であるのであれば、まちの印象と乖離しすぎないように注意すべきである。
- ◆ 駅舎のデザインも、まちの印象や実状と連動すべきである。
- ◆ 加えて、個人的には関西の奥座敷といったイメージ、関西が近くを感じるような雰囲気も醸し出せるとよい。
- ◆ 好きな場所は東海道新幹線三島駅。清流が流れ、以前より市民が中心となってまちづくりが行われており、地域ブランディングの成功事例である。
- ◆ 訪れた際、川沿いを歩くと3名くらいに声をかけられ地場の由来などを教えてもらった。それは、私がリュックを背負ってカメラを持っていたので、観光客とすぐに分かったからだと思う。
- ◆ 地域ブランディング活動により、そういった一人一人が観光客に何かを残そうという意識が根付いている。
- ◆ 現在も、2020年東京オリンピックに向けてブランディング強化を始めている様子である。
- ◆ 新幹線が開通するが、各駅停車の新幹線しか停まらない芦原温泉駅は、金沢

議事録要旨

など速達タイプが停まる駅とは少し考え方を考えるべきである。

- ◆ 速達タイプは大都市からの流入を見込めるが、各駅停車タイプは中小規模の都市がメインになりうる可能性もある。

部会長

- ◆ 癒し、心地いい等、ふわっとしたキーワードが皆さんからよく出ていたので、補足をしたい。
- ◆ 山本氏も言っていたが、将来像のイメージを作っていくにあたって夢物語ではなく、現実的に実現の可能性があることを考える必要がある。
- ◆ 例えば、駅前の商店街のお店では、現在まだ開いているがそこには後継者がいないという問題がある。
- ◆ 駅前で頑張りたいという意欲ある若者がいるのであれば、そういった場所も活用できるのではないか。
- ◆ あと、駅前には足りないものが多すぎる。以前はあったコンビニもない、改札前の売店にセブンイレブンの看板が掲げられる始末。そしてお店がない。観光地なのに、駅に観光情報を発信拠点の力も弱い。
- ◆ こういった現実起こっていくことを見つめ、将来像をどう見据えていくかを考えないといけない。

部会員

- ◆ 初めて福井県に来たのが敦賀だったが、まちなかで誰も歩いていなかった印象を受けた。
- ◆ 現在は福井市に住んでいるが、友人が福井に来た時に歩いていないねと言われた（福井駅前で最大の祭りである「フェニックス祭り」なのにも関わらず）。
- ◆ 温泉街ということだし、風情のあるワクワク感が欲しいと感じる。
- ◆ 駅を降り立ったら、温泉リゾートに来たな、といった印象が必要ではないか。
- ◆ いい意味で昭和の雰囲気を感じることができるようなまちになるとよい。
- ◆ 昭和という雰囲気に通じるが、ある種のなつかしさと、どこかに和風を感じられるような工夫等も必要である。
- ◆ 現在の宿泊施設のトレンドはプライベートな空間で泊まれるなどであり、芦原温泉での大規模ホテルが立ち並び、集団で泊まれる温泉街のような施設は将来的にどうしていくかも考えないといけない。
- ◆ これは、ブランド専門部会の課題かも知れないが、これからの温泉街を考える必要がある。
- ◆ 好きな場所は、仙台、熊本、高松。都市だが、共通するのは商店街が元気なことである。人が多い、活気がある、みんなで飲むぞ！といった雰囲気が感じられる。

議事録要旨

- ◆ 温泉街を歩いてみようという、何かしらきっかけの提供も必要か。
- ◆ 他で好きな場所は、小さなまちでは長野県飯田市。あと、淡路島の洲本
- ◆ 駅舎や建築物でいうと、インパクトは非常に大切。インパクトのある建築は、全国どこにでも見に行きたい。
- ◆ そういった建築を見に行く（学生を中心として）人は多いし、行ってよかったです周囲に口コミが広がる。
- ◆ 実際に、金沢の21世紀美術館にはスウェーデンから知人もわざわざ見に来ている。
- ◆ あわら市の中には、旧金津町のように文化・アートといった背景を持つ、また別の良さがあるエリアがある。

【次回議題について】

8月29日に拡大デザイン部会を実施

- 内容は、広く市民を集い、各都道府県がリーダーとして5名程度のグループを作りワークショップを実施する。
- その際、参加デザイナーも、各グループを回りファシリテーションかつヒアリングを行う。

あわら市の子どもたちをどう巻き込んでいくか？という点

- 例えば、11月27日の公開プレゼンテーション時の会場で、子どもたちが書いた将来のまちのイメージを展示するなどどうかと本部会の議題としてあげていきたい
- 対象は、小学校であれば5～6年生、中学生は興味がある子どもたちに

事務局・赤神氏より

- 金津技研・伊藤社長（地域ブランド戦略会議委員）より、オンリーワンを目指すべきとの助言があった。

今なければ、今すぐでなくてもいいが、数年かけてでもオンリーワンとなりうるモノやコトを育てていくべき、と強い意見をいただいている。